

## 「白山ろく地域活性化計画（案）」

に対するご意見と市の考え方について

募集期間：平成23年12月22日（木）

～平成24年1月4日（水）

結果：2名の方から2件のご意見、ご要望

パブリックコメントに寄せられた「白山ろく地域活性化計画（案）」へのご意見、ご要望と、それに対する市の考え方は以下のとおりです。

	ご意見・ご要望	市の考え方
1	<p><b>【提言】</b></p> <p>もはや、行政の力だけでは、住民サービスは賄えない状況です。ましてや、合併によって、その行政面積が大幅に増えた上、冒頭の人口減少傾向、経済衰退などで、財政が圧迫傾向であることを考慮すれば、行政単独の多大なサービスを果たしうることが不可能に近いと考えます。</p> <p>また、行政拠点や施設の縮小もある程度は仕方が無いことと考えられます。</p> <p>そこで、視点を変えてみると、白山麓だけでなく、白山市には数々のボランティア団体、町づくり団体、福祉団体などが多く存在しますが、打合せなどで気軽に使える施設がなく、資金的に苦労している。</p> <p>そこで<b>【インフラストラクチャーの整備】</b></p> <p>(1) 任意、ボランティア、NPO等の団体が、自由に使える拠点を早急に整備すること。</p> <p>(2) その、団体のネットワークを構築すること。近年のIT環境であれば、facebookなどのSNS（ソーシャルネットワーク）が、その代用を果たしてくれる。</p> <p>(3) その場所は、例えば、縮小が考慮されているバードハミングなどの利用。</p>	<p>本計画策定の考え方として、策定段階から地域住民の参画による策定会議と専門部会を組織し、地域住民の意見や提案を幅広く取り入れるとともに、住民アンケート調査などの意見も参考にして重点施策及び重点事業を掲げ、白山ろく地域の活性化の方向性を示したものです。</p> <p>また、策定された計画の推進体制として、市役所内に「白山ろく地域活性化推進本部」を設置し、庁内で横断的に事業を検討し、実施に取り組む体制を整備しました。</p> <p>本計画の内容が具体策に欠けるというご意見につきましては、前述の体制により本計画の具体的な事業の検討や優先順位を決定することとし、これまでに実施した事業を再度検証し、限られた財源の中で効果のある施策の実施に努め、期間内の事業実施を目標に取り組みます。</p> <p>次に、提言を頂いた内容については下記のとおりと考えます。</p> <p><b>【インフラストラクチャーの整備】</b></p> <p>現在、行財政改革を推進するため公共施設の統廃合等の検討を行っており、白山ろく地域においてもスキー場をはじめとした施設の見直しを図り、財政の健全化に努めています。このような現状を踏まえ、本計画では重</p>

<p><b>【人材の育成】</b></p> <p>人材は、勉強会をやったからと言って育つわけではなく、実戦あるのみであることはいうまでもないことである。しかし、外部から見てその多くの団体等が、どのような活動をしようとしているのか見えにくいことは事実です。</p> <p>従って、白山麓地域の活性化へ向けての、協働アイデアコンテストを行い、地域課題が解消される可能性のある団体に助成を行うシステムを構築すべきである。</p> <p>行政としては、事前に予算化という問題があるかもしれませんが、行政が直接行うことを考えたらその負担は、相当低いものになると思われる。</p> <p>参加団体等は、地域ビジネス、行政代行、住民自治などにその役割を集中できるに違いありません。</p> <p>上記、2つの観点から、行政は、スピードを持った対応をすることが必要です。なぜなら、白山麓のあらゆるファクターの数字を眺めても、残された時間は多くないと考えるからです。</p> <p>白山麓を一つの文化圏と考えると、その中にある資源は、隠れている部分が多く、またその中に天然資源や燃料資源としての有効性を持ったものが多くあり、豊かな自然環境がある地でしかなしえないものが多くあります。観光資源にも、見落とされているものがたくさんあります。それを活かす活性化策を講じる必要があります。</p> <p>今回の、白山ろく地域活性化計画（案）には、方向性は賛成であるが、具体策に欠ける計画であるという意見を、述べさせていただきます。</p>	<p>点施策として、公共施設等の有効活用として掲載しています。</p> <p>ご提言の各種活動団体の拠点施設の整備、IT 環境を活用した各種団体のネットワークの構築及び公共施設の利活用につきましては、休止・廃止となった公共施設の有効活用を図るため管理方法を含めて検討し、活動組織の連携を支援する体制の整備に努めます。</p> <p><b>【人材の育成】</b></p> <p>白山ろく地域の活性化に向けての協働アイデアコンテストを行い、活性化に寄与する内容の団体を支援するシステムの構築について、現在、市では各種団体の活動助成など、補助金制度の見直しを進めています。</p> <p>このことから、限られた財源で効果的な支援のあり方を重点施策として検討し、各種団体などの活動が活発化する施策に取り組みます。</p>
--	--

<p>2 1. 第4章 計画の推進について</p> <p>(1) 計画推進体制についての意見</p> <p>現在の会議や体制では、白山ろくのことを白山ろくの人と有識者にお任せ的な施策にみえます。もっと、同じ市民となった松任や美川地区の方で白山ろくのことを考えている前向きな方々をメンバーに加え、市民目線で白山ろくを外から見てどうか強みや弱みが判断できるような体制に見直したほうが良いと思われます。そのことによって、白山市が旧行政区を越え、ひとつとなって、白山ろくの活性化のことを共に考え、市全体の問題解決と市の発展と繋がっていくと思われます。</p> <p>よって、推進体制のメンバーに白山ろく以外の一般市民を公募等で加えることを望みます。</p> <p>(2) 計画推進における拠点づくりについて</p> <p>基本施策3の「地域間交流の促進」「3. 市民活動の活性化」をはじめ、各種の基本施策の中にボランティア団体やNPOに頼るところがあります。このような市民団体が活動しやすいようにまた、各種団体の交流や意見交換・情報の共有が出来るようにいつでも集い利用できるスペースや環境を作ることをご検討ください。白山ろくの団体だけでは無く、白山ろく以外の団体にも支援してもらうために利用できるような「白山ろく地域支援ボランティア交流センター」のようなものを支所廃止等による空きスペース等を利用し、支援団体がいつでも利用できるような場所を提供し、支援体制の確立と整備を望みます。但し、平日夜間や休日も打合せや作業に使えるような配慮が必要であると思ひます。</p> <p>2. 「基本施策1 交通体系の充実」についての意見</p> <p>白山ろくの公共交通機関(コミュニティバス含む)の存続は、大変重要な問題です。特</p>	<p>1. (1)計画推進体制について</p> <p>計画策定の委員につきましては、当該地域の課題や問題、その対策案に地域内の住民意見を十分反映するために、住民代表の委員を中心とした構成としています。</p> <p>また、計画の推進についても、白山ろく地域に住む人々が主体となり、官民協働で取り組む必要があると考えます。</p> <p>しかしながら、当該地域の現状として人材不足が大きな課題であることから、地域外の市民や活動団体の参加・協力が得られるよう市民意識の高揚を促し、市全体の一体感の醸成が必要と考えます。</p> <p>このことから、計画の推進体制において、市民などが参加・協力できる体制に変更することを検討します。</p> <p>1. (2) 計画推進における拠点づくりについては、現在、行財政改革を推進するため公共施設の統廃合等の検討を行っており、白山ろく地域においてもスキー場をはじめとした施設の見直しを図り、財政の健全化に努めています。このような現状を踏まえ、本計画では重点施策として、公共施設等を有効活用することを記載しています。</p> <p>ご提言の各種活動団体の拠点として公共施設を活用することにつきましては、休止・廃止の対象施設の有効活用を図ることとし、管理方法なども含め検討します。</p> <p>2. 交通体系の充実について、公共交通の基本は事業者が運行する電車や路線バスであり、それを補完する交通手段としてコミュニティバスなどが必要と考えます。このことについては、これまで運行事業者に対し、運行の継続を要望するとともに利用促進事業や運行補助を行い、また、コミュニティバスにおいては、利用実績や市民要望を基にダイヤ</p>
--	---

<p>に行政として運営するコミュニティバスの利便性の向上は、重要な課題です。他の都道府県での先進地の運営モデルの情報も収集し、白山ろくにあった運営運行を模索し、地元市民や街の市民も含めての市民運営も含め検討し、しっかりとした体制で継続的に運営し、利便性の向上を図ってください。ある程度の赤字運営は、人口比からも仕方が無いので、必要な投資は行政としてすべきと考えます。</p> <p>3. 「基本施策 4 医療体制の充実」についての意見</p> <p>医療体制の充実としても既存の鶴来病院や松任中央病院への通院できるようなコミュニティバスの運行の継続と時間的利便性の向上も必要と思います。</p> <p>また、バードハング鳥越のプールが廃止の報道がありました。以前、スポーツ施設としての廃止検討には入っていなかったように思います。私の考えとしては、バードハング鳥越のプールを利用し、白山ろくの高齢者が水中ウォーキング等で利用していただき、健康な身体の維持に努めて頂くことにより、医療費の抑制に繋がると思います。特に冬季積雪により、屋外でのウォーキングもなかなか出来ない環境であるので、既存施設を使ってもらえる施策が必要かと思えます。白山ろくの施設を赤字だけで廃止を結論づけるのは、いささか短絡的に思われます。施設運営上は、人口比からも赤字の補填は仕方が無く、間接的な医療費抑制といった効果に期待してもいいのではないのでしょうか。</p> <p>また、行き過ぎの施設廃止は、地元の不満と不信を招き、不便となり、定住者促進や交流人口にも影響が出て、過疎化を助長させることになり、この活性化計画の推進に影を落とすことになると思えます。「基本施策 3 地域資源活用と保全」、「4. 施設の充実と活</p>	<p>の改正や路線の見直しを図ってきました。今後も、路線バス等の確保に努め、コミュニティバスの小型車輛の導入等により移動手段の充実を図り、さらに、高齢者など交通弱者の暮らしを支える交通システムの構築など利便性の向上に努めます。</p> <p>3. 医療体制の充実について、ご提案の高齢者医療費抑制対策としてのスポーツ施設等の活用は、これまでも生涯スポーツの推進と併せた環境づくりを実施してきたところですが、今後も、行財政改革の推進による公共施設の休止・廃止が過疎化を助長することにならないよう、更には、高齢化に対応するため、市民と行政の協働により施設の有効活用に努めます。</p> <p>4. 地域資源活用と保全について、市内には、白山ろく地域をはじめ、多種多様な資源が存在しており、自然資源・文化的資源・人的資源など、それぞれが持つ特徴や素材を活かす取り組みが必要と考えます。</p> <p>今後は、6次産業化や白山手取川ジオパークの取り組み等による地域資源の活用を推進するため、市民との協働による柔軟な発想と施策の展開が必要不可欠であることから、白山ろく地域はもとより、市全体で施策を推進する体制の整備に努めます。</p>
---	---

	<p>用」の観点からも市民と共に知恵を出し合い、存続が必要と思います。</p> <p>よって、重点施策に「高齢者の医療費抑制対策」の項目の追加し、「生涯スポーツ等のできる環境づくり」といったことを追加することをご検討ください。</p> <p>4. 「基本施策3 地域資源活用と保全」についての意見</p> <p>「1. 多様な資源の活用」とありますが、白山ろくには、まだ多くの地域資源が埋没していると思います。私達は一市民ですが、私達のグループでは、ある資源に着目しており、観光資源等に活用できないかを模索しております。白山ろくの住民ではないが、いろいろと考えております。民間や白山ろく以外の市民の意見も聞き、活性化に繋げてください。われわれも機会を捉え、行政側へ意見を発信し、協力していきたいと思っております。</p>	
--	--	--